

シンポジウム

『当事者主体の保健福祉学を考える』

【企画の趣旨・趣旨】

保健福祉領域におけるケアのあり方や研究の枠組みを考えると、当事者の生活上または健康上のさまざまなニーズに視点をあてて議論されるべきであることはいままでもない。しかし、現実には当事者ニーズはどこかに置き忘れられ、政策立案者や研究者のニーズが優先されることもしばしばである。例えば、高齢者ケアの現場では当事者ニーズがどの程度反映されているのであろうか。また、地域のヘルスプロモーション計画の立案や実践において、果たして住民の主体的参加に重点が置かれているのであろうか。このシンポジウムでは、子育て支援、高齢者ケア、精神保健福祉活動、ヘルスプロモーション活動などの分野における当事者主体の保健福祉の実践や研究の現状と課題を明らかにし、人々の生活の質やウェルビーイングの維持・向上に向けた保健福祉学の方向性について議論する。

座長：小山 修（日本子ども家庭総合研究所・客員研究員）

芳賀 博（桜美林大学大学院老年学研究科・教授）

シンポジスト及びテーマ：

テーマ	シンポジスト	所属
社会的養護における当事者活動の芽ばえ	永野 咲	NPO 法人社会的養護の当事者参加推進団体日向ぼっこ 地域生活支援員
障害のある人と共に創り合う地域生活支援活動 ～街の中で生き生きと暮らし、働くことを支える～	大澤美紀	社団法人やどかりの里 大宮区障害者生活支援センター 代表 (PSW)
ニーズの 3 割しか満たさない高齢者の保健福祉 サービス ～保健福祉介護の政策が当事者主体のケアに 及ぼす負の影響～	松田正己	東京家政学院大学 現代生活学部健康栄養学科 教授
当事者主体を促進する行政のしくみ	斉藤恭平	東洋大学ライフデザイン学部 健康スポーツ学科 教授